

ロードレース再開についてのガイダンス (チェックリスト)

大会主催者はロードレース開催の前提条件と基本注意事項を満たし、配慮事項を参照の上、開催可否の検討及び開催の準備に取り掛かる。

(※以下、青い文字で表示されている項目にはリンクが張られています。)

【言葉の定義】

- ・ロードレース : 5km、10km、ハーフマラソン、フルマラソン、100km マラソン、10 マイル、駅伝
ロードリレー、クロスカントリー、競歩、などの屋外ランニングイベント
- ・ランナー : 国内招待選手、一般ランナー (※海外ランナーは含まない)
- ・大会運営関係者 : 会場設営業者など

【ロードレース開催の前提条件】

1. 緊急事態宣言が解除されていること。
 - ①移動制限の解除。
 - ②不要不急の外出自粛の解除。
 - ③店舗営業自粛の解除。
 - ④学校において部活動が認められている。(※高校生以下のロードレースの場合)
2. ロードレース開催のコースを通過する全ての管轄する自治体からイベントの開催が認められていること。
3. 大会開催都市もしくは地域において、新型コロナウイルス感染症に関する診療体制が整っている。緊急時の後方支援病院がある。
4. ロードレースに関わる全ての人(参加ランナー・チーム関係者・大会/競技役員・観客・メディアなど)の健康状態の管理体制が整えられていること。
(開催1週間前の体調報告・検温の義務、および終了後2週間の体調管理・検温の義務)
5. 大会主催者は、感染者、濃厚接触者、感染疑い者が発生した場合の手順を定めた「感染症予防対策マニュアル」を作成していること。
6. 陸上競技活動再開のガイダンス「競技会開催について」に沿った競技会運営をおこない、大会終了後に指定の報告書(検討中)を提出すること。

I ロードレース開催にあたって3つの基本注意事項

1. 徹底した感染症予防策の実施

- ・ 3密を避ける競技運営。
- ・ ソーシャルディスタンスを確保した会場計画。（できるだけ2m 最低1mを目安に）
([厚生労働省：新しい生活様式](#))
([日本スポーツ協会：スポーツイベントの再開に向けた感染拡大予防ガイドライン](#))

2. 感染者が発生した際の危機管理体制の構築

- ・ 感染症予防対策マニュアルを作成し、感染者、感染疑い者、濃厚接触者が発生した際に適切な対応を行う。

3. ロードレースに関わる全ての人の健康状態の把握

- ・ ロードレース開催前、当日、事後に万が一感染者が発生した場合も保健当局などがクラスターを早期発見し感染経路が特定できる状態を作る。
([厚生労働省：新型コロナウイルス感染症対策の基本方針](#))

II ロードレース開催にあたっての配慮事項

1. 参加ランナー、チーム関係者、競技役員、大会役員、ボランティアなどへの感染症対策に対する各種注意事項

- ・ 必要に応じて大会要項・競技注意事項に記載する。
- ・ 大会主催者の感染予防対策について理解を促す。

□ (1) 個人情報取得の同意

① 個人情報の取得目的を明記。

- ・ 競技運営目的以外に感染症予防対策目的に個人情報を取得する旨を大会要項に記載し、体調管理チェックリストで同意を取得する。

取得事項 ([スポーツイベント開催・実施時の感染防止策チェックリスト 当日の参加受付時の対応](#))

※取得事項は[要配慮個人情報](#)に該当する可能性があり、事前に同意を取ることが求められます。

- ・ 取得の対象者は参加ランナー、チーム関係者、競技役員、大会役員、ボランティアなど。

② 個人情報の第三者提供。

- ・ 大会主催者が保健所・医療機関などの第三者へ情報を提供することへの同意。

③ 個人情報の保管期間。

- ・ 取得した個人情報は大会終了後少なくとも1月以上保管する。
- ・ 保管期間を過ぎた当該情報は、適正かつ速やかに廃棄をおこなうとともに、廃棄した証を保管する。

□ (2) 大会主催者が行う感染症予防対策への同意

- ・大会主催者が行う感染症予防対策を事前に参加ランナー、チーム関係者、競技運営関係者に周知し、従うことを前提にロードレースに参加、従事いただく。特に感染症予防対策のため新たに手間や費用が発生し得る事項や、参加を断るなど、本人の意思とは反する行動を求める事項は、事前に周知することでトラブルを未然に防止する。

以下①～⑤は参加ランナー／チーム及びチーム関係者に申込と合わせて同意してもらう。

- ① 大会主催者から健康状態の確認に応じる。(大会開催1週間前、大会当日、大会終了後2週間)
- ② 感染疑い症状の発症、PCR検査もしくは抗原検査で陽性反応、濃厚接触があった場合に大会主催者に報告し、参加を辞退する。
- ③ ロードレース当日に発熱などの感染疑い症状がある場合、大会主催者は参加を断る。
- ④ 参加者に協力を要請する事項。(マスクの持参/レース中も捨てずに所持、検温の実施、更衣室の有無など)
- ⑤ その他、大会主催者にて事前に説明が必要と考えられる事項。

□ (3) 大会主催者の免責事項

- ・大会主催者の責任の範囲を明確にする。

- ① 大会主催者は参加ランナー、チーム関係者、競技運営関係者に対して加入する保険の補償内容を明示する。
- ② 大会主催者は参加ランナー、チーム関係者、競技運営関係者の感染に対するいかなる責任も負わない。

□ (4) 感染者、濃厚接触者、感染疑い者の参加・従事の可否

- ・大会開催2週間前から大会当日までに新型コロナウイルスに関わるPCR検査もしくは抗原検査での陽性反応、濃厚接触、感染疑い、が発生した場合の対応。

- ① 参加ランナーへの対応：出場を認めない
- ② 競技運営関係者への対応：従事を認めない

□ (5) 大会が中止になった場合の対応方法

- ① 返金の有無

- ・返金方法例

現金書留、クオカードなどの金券、エントリーサイトからの返金、郵便局による通常現金払いなど。

- ② 出場の権利

失効か、次年度以降に出場可能か、など。

□ (6) その他

- ① 参加ランナー・チーム関係者、競技役員、大会役員、ボランティアなどが 65 歳以上の方、基礎疾患を有する方の場合、重症化するリスクが高い旨を認識した上で参加いただく。
- ② 参加ランナーは競技を行っている時以外はマスクを着用する。
 - ・マスクはウイルスが付着する可能性があるので、各自が持ち帰り廃棄をする。
 - ※マスク回収のゴミ箱は設置しないことが望ましい。
 - ・会場に万が一マスクが落ちていた場合は、使い捨て手袋着用の上、清掃トングを使うなど直接手に触れないことを徹底する。
 - ・参加ランナーはフェイスマスク（バフなど）の代用品を認める。
- ③ 迅速且つ簡易的な情報伝達を重視する為、申し込み受け付けは Web 受付、ナンバーカードの引き渡しは郵送が望ましい。

2. 参加ランナー・チーム関係者の健康管理

- ・日々の体調管理の徹底。
- ・感染経路の特定。

感染又は濃厚接触に該当する状況になった場合は、感染経路の特定のために、異常を感じた日からさかのぼり 2 週間前までの下述の項目を記録し、検温・体調・行動記録の提出を求められた場合に即時に提出できるようにする。

体調管理チェック表・行動記録（訪問場所と時間）のデータは、少なくとも 1 月以上は各自またはチームで保管する。

□ (1) ロードレース開催 1 週間前

- ① 参加ランナーはロードレース開催 1 週間前から [【大会前：提出用】体調管理表・症状チェック表](#) に記入し体調管理を行い、大会当日に提出する。
- ② 実業団、中学、高校、大学、クラブチームなどチーム内に健康管理責任者を決め、当該者が参加ランナー、関係者の健康管理情報を集約し大会主催者に報告する。

□ (2) ロードレース当日

- ① スタート会場への入場を制限するため、入口を設け、サーモグラフィーなどを設置し、大会主催者が参加ランナーや競技運営関係者などに感染疑い者がいないか確認を行う。
- ② 感染疑い者を発見した場合は事前に定めた感染症予防対策マニュアルに基づき、医師、看護師、保健師の指導や相談の上、慎重に対応する。

- ③ 体調管理表・症状チェック表が提出されない、または適切に健康管理がされていないと大会主催者が判断した場合、ロードレースへの出場は認めない。

□ (3) ロードレース終了後2週間

- ① 参加ランナーはロードレース終了後2週間、[【大会後：個人管理用】体調管理表・症状チェック表](#)に記入し、体調管理を行う。症状が4日以上続く場合は必ず最寄りの開催自治体の衛生部局に報告し、大会主催者に報告する。

([厚生労働省：新型コロナウイルス感染症についての相談・受診の目安](#))

- ② 主催者はロードレース終了後、2週間以内に感染の報告を受けた場合、感染情報を入手し、開催自治体の衛生部局に連絡し、指示に従い協力する。
- ③ 主催者は地元行政などと協議の上、感染者が発生した旨の情報発信を行う必要があるかを協議する。
- ④ 濃厚接触者が追跡可能な状況で感染者が発生していた場合など、必ずしも対外的に情報を発信する必要はない。情報発信をする場合は、当該者のプライバシー保護に最大限配慮をする。

3. 大会主催者の感染症予防対策

□ (1) 会場計画

- ・3密を回避、ソーシャルディスタンスを確保した会場計画・ゾーニングを行う。
- ・参加ランナーと競技運営関係者の動線をできる限り分ける。
- ① 密閉空間（換気の悪い密閉空間である）の対策。
シャトルバス（※）、諸室、更衣室、メディアルームなどの換気を徹底する。
- ② 密集場所（多くの人が密集している）の対策。
シャトルバス、諸室、更衣室、招集所、スタート待機所、給水給食所、トイレなどにおいて、ソーシャルディスタンスを確保する。
- ③ 密接場面（互いに手を伸ばしたら届く距離での会話や発声が行われる）の対策。
シャトルバス、諸室、スタート待機所、などにおいて、ソーシャルディスタンスを確保できる人数に制限する。

※シャトルバスなどの輸送手段の運営方法は、各業界や事業者が定めるガイドラインに準拠した運営を行うこと。

([公益財団法人日本バス協会 バスにおける新型コロナウイルス感染予防対策ガイドライン](#))

□ (2) 競技運営

- ① ソーシャルディスタンスを確保した競技運営。
定員の設定／競技役員、ボランティアの配置計画／参加ランナーの動線設計
- ② 3密を回避した競技運営。（特に密集・密接）

ウェーブスタートの推奨／15分以上同じ場所に滞留させない（※）

※濃厚接触と判断する目安「1m以内 15分以上の接触」に基づく。

[\(国立感染症研究所 積極的疫学調査実施要領における濃厚接触者の定義変更などに関する Q&A \(2020年4月22日\)\)](#)

③ 効率的な運営。

審判資格保有者の効率的な登用。

④ 接触を極力回避した給水所の運営。

使い捨て手袋などの着用／手渡しでの提供は行わない／余裕を持ったテーブル配置など

⑤ 接触を極力回避した給食。（一般ランナー）

提供物は個包装のものとする／必要最低限の提供／個々で補給のゼリーなどの持ち込みを推奨

⑥ 回し飲みは認めない。

⑦ 給水所にスポンジは使用しない。

⑧ 嘔吐物は個人防護具を着用した者が対応し、消毒を行う。

消毒に有効な薬剤の例：アルコール 70%程度のもの、もしくは次亜塩素酸ナトリウム 0.05%溶液

⑨ フィニッシュ後にマスクまたは代用品を提供し着用、手指消毒を促す。

⑩ 完走メダルや賞状などの記念品は当日渡さず、後日発送などの接触を極力回避した対応を行う。

⑪ 記録証やリザルトなどは印刷せず極力オンラインで発行する。

⑫ 取材や表彰式を実施する場合は 3密を回避した形で実施する。

人数制限／ソーシャルディスタンスの確保／屋外

□ (3) 医療対応

① 医師／保健師／看護師で構成された医療チームを医務室・救護室に常駐させ、常に相談ができる体制を整える。

② 感染疑いがある者への対応は医師／保健師／看護師へ相談、感染症予防対策マニュアルに沿って対応する。

③ 個人防護具を準備する。（フェイスシールド、ゴーグル、使い捨て手袋、マスク、白衣など）

④ ロードレース中・フィニッシュ後に倒れ込んだランナーのケアは防護体制（※）を整えたスタッフで対応する。（感染者である可能性が否定できない為）

※防護体制：マスク、フェイスシールド、ゴーグル、使い捨て手袋など

ゴーグル（サングラス）はその都度、アルコール消毒をする。

⑤ 発熱者が出た場合の隔離室または隔離できるテントを確保する。

（適切な部屋が確保できない場合は、飛沫感染防止可能なカーテン、パーテーションなどで仕切ったコーナーを用意する。）

□ (4) トイレ（便座、ドアノブ、水洗トイレのレバーなどを清潔に保つ。）

- ① 感染症防止の張り紙を貼付するなどの工夫。
- ② 常設トイレ：洋式トイレではふたをした後流すことの徹底。
石鹸または消毒液の常備／ハンドドライヤーの使用中止
- ③ 仮設トイレ：消毒液の設置。
- ④ 沿道施設のトイレ：借用可能か確認する。

□（５）ゴミの廃棄

- ① 参加ランナー各自で管理するなど、極力ゴミが出ないような運営を検討する。競技施設内はゴミ箱を撤去し、ゴミは各自持ち帰るように事前に周知し、かつアナウンスする。
- ② 主催者はマスクなどのウイルスが付着している可能性のあるゴミを、使い捨て手袋、トングなどを使用しビニール袋に入れて密閉して縛り廃棄をする。
- ③ 飲み残しなどは公道などに流すのではなく、主催者は適切に処理する。
- ④ 主催者は参加ランナーに衣服などは脱ぎ捨てないよう周知し、且つアナウンスする。脱ぎ捨てられた衣服などは直接触れず使い捨て手袋の着用、トングなどを用いて回収し原則廃棄する。

□（６）沿道の応援

- ① 地元住民含め沿道での応援の自粛要請。
- ② 沿道の中でも特に混雑が予想されるエリアの対策。
応援自粛・ソーシャルディスタンス確保、ポスター掲示、スタッフによる滞留禁止の呼びかけなど。
- ③ 沿道から声援を送らない。ハイタッチ、私設エイドの禁止。
- ④ [新型コロナウイルス接触確認アプリ](#)などの積極活用。

□（７）予算編成

- ① 感染症予防対策に係る費用の算出をする。
- ② 開催直前に感染流行し中止判断を行った場合の損失を算出する。
- ③ スケジュールに応じた返金のシミュレーションをする。
- ④ 事業の継続性を優先する。

4. 情報発信

□（１）情報管理

- ① 感染者、濃厚接触者、感染疑い者が発生した場合、地元行政及び保健当局と協議の上、情報発信の有無、情報発信の方法について協議をする。
- ② 公表を行う場合、公表内容を含め日本陸連に連絡をする。
- ③ 感染者が発生した旨を公表する場合は、積極的疫学調査により濃厚接触者が特定できない場合など、不特定多数の人に知らせる必要がある場合とする。

- ④ プライバシー保護に努め個人名は公表しない。
- ⑤ 感染者本人が個人名の公表を求めた場合、匿名での公表であっても社会的責任を果たすことができる旨を伝える。

□ (2) 病歴管理

- ① 「病歴」は「要配慮個人情報」という個人情報のなかでも極めてセンシティブな、プライバシーがより保護されるべき情報であり、必ず個人情報取得の同意、情報の管理者、保管方法、廃棄方法を明確にする。

5. 大会終了後の報告事項

- (1) 大会主催者は所定の報告書（検討中）を大会終了後1ヶ月以内に日本陸連にメールにて提出する。

※以下は検討中の項目です。

- ① 感染症予防対策マニュアル
- ② 参加した医療関係者数（医師／保健師／看護師）
- ③ 参加者数、競技役員数
- ④ 健康状態の管理状況（ロードレース1週間前、当日、競技会終了後2週間）
- ⑤ 感染者発生状況（ロードレース1週間前、当日、競技会終了後2週間）